



J PAC

JAPAN PROGRAM at CHIBA

International Liberal Arts Program
Japanese Studies Program

国際教養プログラム
日本研究プログラム

2018・2019



CHIBA UNIVERSITY

Introduction

Since its start 20 years ago, the J-PAC has welcomed students from Chiba University's partner institutions in great numbers. Despite the short period of one year or six months of stay, their experience of the J-PAC has offered to both participant exchange students and the home students who studied with them, unforgettable memories, and has forged lasting friendships. Many of those who have completed our program decide to come back to Chiba for further studies, or return to work in Japan after graduating from their home university.

The lushly green campus of Nishi-Chiba where J-PAC students attend classes is conveniently located only 40 minutes by train from the center of Tokyo. We hope that you consider applying to the J-PAC soon!

J-PACは、これまで20年以上にわたって千葉大学の協定校から数多くの交換留学生を受入れてきました。1年または半年という長くはない留学期間ですが、日本の学生、世界各地から集まる留学生とともに学び、友情を育んだ経験は、参加した人々の人生にとって忘れがたい思い出になっているようです。修了生の中には、千葉大学に再び留学したり、大学卒業後も日本と何らかの関わりを持ってキャリアを築いている人が少なくありません。

J-PAC生が学ぶ西千葉キャンパスは、東京まで電車で約40分という便利な場所にありますが、緑豊かな素晴らしい環境でもあります。皆さんも是非J-PACに参加してみませんか。

Contents

Chiba University	2	千葉大学	18
J-PAC (Japan Program at Chiba)	4	プログラムのねらいと特色	19
01 International Liberal Arts Program	4	01 国際教養プログラム	19
02 Japanese Studies Program	5	02 日本研究プログラム	20
03 Faculty which J-PAC students belong to at Chiba University	6	03 千葉大学における所属	21
Course Offerings	7	授業の紹介	22
Student Life at Chiba University	10	千葉大学での学生生活	24
Recruitment Requirements	13	応募方法	27
Scholarships	15	奨学金	29
Student Voice ・ 学生の声	16		

千葉大学

千葉大学は1949年に発足した総合大学で、約14,200人の学部生、大学院生が在籍する、規模、内容とも国立大学法人の上位にある大学です。現在は、国際教養、文、教育、法政経、理、医、薬、看護、工、園芸からなる10の学部のほか、大学院として教育学、園芸学、看護学の各研究科および人文公共学府、融合理工学府、医学薬学府、専門法務研究科が置かれています。また、附属図書館、アカデミック・リンク・センター、総合安全衛生管理機構、医学部附属病院などの施設も充実しています。

千葉大学の特徴

「つねに、より高きものをめざして」を理念とし、広い視野をもって何事にも誠実に取り組む国際的な人材の育成を目指しています。そのために、教養(普遍)教育の充実と教育活動の国際化を積極的に進めています。2016年4月に新設された国際教養学部は、国立大学としては初めて開設されたもので、世界が直面するさまざまな問題を幅広く俯瞰的な視点からアプローチする人材を育成することを目的としています。

日本社会のグローバル化を牽引する「スーパーグローバル大学」に選ばれ、文部科学省の重点支援を受けて、英語による授業も年々増えています。留学生の受入れや派遣も積極的に行っており、2017年11月現在約1000名の留学生が学んでいます。また、海外の大学との協定等に基づく派遣留学生が国立大学の中で最も多い大学です(2014年度、4年連続)。

キャンパス内にはインターナショナル・サポートデスクが設置されており、留学生の日本での生活をサポートしています。また、西千葉キャンパスのある千葉市は、東京から電車で約40分、成田国際空港から車で約45分のところにあります。気候が温暖で物価も比較的安く、生活しやすいところです。

キャンパスは、メインキャンパスである西千葉地区を中心に、他の2地区(亥鼻キャンパス、松戸・柏の葉キャンパス)に分かれています。

西千葉キャンパス	国際教養学部、文学部、法政経学部、人文公共学府、専門法務研究科 教育学部、教育学研究科、工学部、理学部、融合理工学府
亥鼻キャンパス	医学部、薬学部、医学薬学府、看護学部、看護学研究科
松戸・柏の葉キャンパス	園芸学部、園芸学研究科

プログラムのねらいと特色

J-PAC (Japan Program at Chiba) は、千葉大学と大学間交流協定を締結している大学の学部生のうち、日本文化・日本社会に関心を持つ者を対象として行われるプログラムです。

専門を問わず様々な学生を受け入れる「国際教養プログラム」と日本語、日本文化、日本研究を専門とする学生を受け入れる「日本研究プログラム」とがあり、いずれも10月から翌年8月までの4ターム、10月から2月までの2ターム(秋学期に相当)、または、4月から8月までの2ターム(春学期に相当)の3つの期間から選ぶことができます。タームについては24ページを参照のこと。

01

国際教養プログラム

1. ねらい

本プログラムは、日本語の学習経験があり、日本社会・日本文化に興味を持つ学部留学生を対象とするプログラムです。このプログラムでは、日本を題材としたリベラル・アーツ科目を多数提供しています。千葉大学生や様々な国から来る交換留学生との協働学習を基本とし、日本に対する理解を深めると同時に、自国の文化や社会に対する新たな視点、グローバルな問題に対する複眼的思考力、言語や行動様式の違いを乗り越えて問題を解決していく力を身に付けることをねらいとしています。日本語を学習するだけの語学コースではありません。

2. 特色

文系の学生だけでなく理系の学生の参加も歓迎します。次の4つの目標に沿って、授業が用意されており、各自の興味・関心に合わせて授業を選択することができます。

- ① 日本社会・日本文化に対する理解を深める。
- ② 千葉大学の特色ある授業に参加し、新しい知見を得る。
- ③ 千葉大学の学生との交流を通して異文化理解を促進する。
- ④ 日常生活や大学での学習に必要な日本語を習得する。

参加者は、英語で学ぶ授業、英語と日本語の二言語で学ぶ授業、留学生向けに開講される授業、日本語で行われる一般の授業の中から、自分の語学力に合った授業を選択することができます。また、アクティブ・ラーニングを活用した授業を行っていることも特色の一つです。様々な形のグループワークを通じて学生同士が協力して学び合い、学生自身が授業を作る役割を担います。

3. 応募条件

応募時に2年生以上で、英語による授業を受けられるだけの十分な英語運用能力が必要です。また、日本語を教育機関または独学で50時間以上学習していることが必要です。日本語学習期間が短い場合は、来日前にOnlineの日本語学習を義務づけることがあります。

4. 修了要件

各タームに週6コマ以上の授業を受講し、連続する2つのターム(10月から2月まで/4月から8月まで)にそれぞれ10単位以上修得した学生には、修了証が与えられます。



02

日本研究プログラム

1. ねらい

本プログラムは、日本語や日本研究を専攻する学部留学生のうち、日本語で日本について学ぶことを目指す学生を対象とするプログラムです。外国語として学んできた日本語を実際に用いることで日本語の特質をより深く理解すること、千葉大学の学生および異なる文化・言語を背景とする多様な留学生との協働学習によって複眼的な視点から日本を捉えられるようになることを目指します。さらに、本格的な日本研究を遂行するための基礎となる能力を習得することも目的としています。

2. 特色

自分のレベルに合った日本語科目を受講しながら、日本研究の基礎となる科目を千葉大学の学部生とともに受講することができます。また、各々の専門や日本語能力に応じて、学部の専門科目の中からも授業を選ぶことができます。

各自がテーマを決めて研究を進め、日本語で修了レポートを作成するプロジェクト「特別研究(文系) A・B」や、国立歴史民俗博物館の展示案内シートを母国語で作成するプロジェクト「特別研究(文系) C・D」などのプロジェクト型の科目の履修を通して、知識の習得に留まらない、能動的な学習を経験することができます。

留学生が母国の文化を紹介する「ユニバーサル・フェスティバル」で発表を行ったり、近隣の小学校などで子どもたちと交流を行ったりして、日本語で発信する力を養うとともに、幅広い人間関係の構築を目指します。

3. 応募条件

応募時に2年生以上で日本語能力試験N2相当以上の日本語能力を有している必要があります。

4. 修了要件

各タームに週6コマ以上の授業を受講し、連続する2つのターム(10月から2月まで/4月から8月まで)にそれぞれ10単位以上修得した学生には修了証が与えられます。

03

千葉大学における所属

J-PACの学生は、特別聴講学生として国際教養学部にも所属することになります。国際教養学部は、グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学の3つのメジャーがある学部です(<http://www.las.chiba-u.jp/index.html>参照)。これ以外の分野で専門の教員から個人指導を受けたい場合は、申請書に専門分野名と研究テーマを書いてください。

なお、本プログラムの参加者は、授業担当教員の許可が得られれば、所属する学部に関係なく、千葉大学の各学部で開講される専門科目を受講することもできます。



授業の紹介

J-PACの学生は、以下の01から04の授業を中心に、各自の興味と語学力に合った科目を選択して受講することができます。01、02に区分される科目は、印のある一部の科目を除き、「普遍教育科目」と呼ばれる教養科目で、さまざまな専門の千葉大学生とともに学ぶ授業です。日本の学生の視点や認識とのかかわりの中で学習を進めることができます。

リストにない科目でも授業担当教員が認めれば履修できる科目が多数あります。1回の授業はいずれも90分、1タームは8週です。なお、国際教養プログラムの参加者で、日本語力が千葉大学の日本語500番台以下の学生は、英語で学ぶ授業・日本語と英語の二言語で学ぶ授業の中から各ターム2科目ずつ受講しなければなりません。

01

英語で学ぶ授業・英語と日本語の二言語を使って学ぶ授業

日本の社会や文化に対する理解を深める授業、千葉大学の特色ある授業に参加して新しい知見を得る授業が開講されています。以下のような「クリティカル日本学」と呼ばれる科目が含まれているのが特徴です。

クリティカル日本学は、「日本」という事例を通して「世界」を学ぶという目的を持った、千葉大学のユニークな日本学のカリキュラムである。歴史、大衆文化、環境、デザインなどの幅広い分野の授業を通し、「日本」がどのように世界で表象されているのか、そして人々がどう「日本」を解釈しているのか、関連する課題やテーマについて批判的に考察する授業である。また、日本についての基礎知識を学ぶだけでなく、自らの体験、自らの文化と照らし合わせて日本を見つめ直すことによって、様々な事象についての新しい視点、より深い気づきを得られることも目指している。

なお、「英語と日本語の二言語を使って学ぶ授業」というのは、受講者の言語能力、文化的背景、予備知識を補い合うために二言語(英語・日本語)を併用する授業です。

T4-5
10月 - 2月上旬開講予定科目

T1-2
4月 - 8月上旬開講予定科目

【英語で学ぶコース】

日本語入門 / 日本語文法概説 / グローバル化の中の日本社会と文化 / オカルトとグローバル日本 / ゼミナールb* (国際経済論) / 建築デザインへの招待 / 気候変動とその対応策 / 都市生活と環境 / デザイン・プロジェクト・ワーク

【英語で学ぶコース】

日本語入門 / 日本語文法概説 / 健康と医療の日本文化 / 逸脱とタブー / 人種:日本人とアメリカ社会 / 学校教育と公正性 / 格差社会とは何か / グローバルな社会変動 / 日本のポップカルチャー / デザイン科学 / 応用科学の面白さ / 画像工学の基礎

【英語と日本語の二言語で学ぶコース】

異文化交流演習 / 言語とメディア / 言語と社会 / 異文化間コミュニケーション入門 / 日本における異文化間コミュニケーション / 宗教と社会 / グローバルな視点からみた日本近代史 / グローバル・プロジェクト・ワーク

【英語と日本語の二言語で学ぶコース】

言語とメディア / 言語と社会 / 異文化間コミュニケーション入門 / 日本における異文化間コミュニケーション / 教育・社会・不平等 / アメリカ映画における日本

02

日本語で日本について学ぶ授業

T4-5

10月 - 2月上旬開講予定科目

日本語の諸相 / 日本語の特徴 / 日本語の文法 / 時事から日本を考える / 日本人の精神・伝統文化 / 日本アジア文化交流史 / 近代日中の文化と思想を考える / 地域を知り、地域で企画する / 日本の食文化* / 現代言語社会論* / 接触コミュニケーション論* / 多文化共生教育論* / 国際理解教育演習** / 日本の教育事情** / 教育記事を読む**

T1-2

4月 - 8月上旬開講予定科目

時事から日本を考える / 日本人の精神・伝統文化 / 日本イメージの交錯 / 多文化接触論* / 日本の言語文化*

*は国際教養学部の専門科目、**は教育学部の留学生科目です。

03

J-PAC生向けの研究・実習を行う授業

T4-5

10月 - 2月上旬開講予定科目

特別研究(文系)A / 特別研究(理系)A
特別研究(文系)C

T1-2

4月 - 8月上旬開講予定科目

特別研究(文系)B / 特別研究(理系)B
特別研究(文系)D / 特別研究(文系)E
言語文化交流演習

04

日常生活や大学での学習に必要な日本語を学ぶ授業

目標	レベル		開講予定科目
日本語で研究活動を行うための高度な日本語能力を養う	上級	日本語800	T4-5 口頭表現、発表資料作成、レポートの書き方 T1-2 口頭表現、文章読解、レポートの書き方、文法詳解
		日本語700	T4-5 口頭表現、文章読解、発表資料作成、文法詳解 T1-2 聴解、文章読解、レポートの書き方、文法詳解
	中級	日本語600	T4-5, T1-2 口頭表現、読解、文章表現、文法、漢字
		日本語500	T4-5, T1-2 総合、口頭表現、文章表現、文法、漢字
		日本語400	T4-5, T1-2 総合、口頭表現、作文、漢字
	基礎的な日本語能力を養う	初中級	日本語300
日本語200			T4-5, T1-2 総合、読解・作文、会話、漢字
初級		日本語100	T4-5, T1-2 総合、会話、口頭表現、漢字

千葉大学での学生生活

秋学期

第4ターム・第5ターム

9月下旬	オリエンテーション・履修登録
10月	秋学期前半(第4ターム)授業開始
11月上旬	大学祭
11月下旬	ホーム・ビジット
12月上旬	秋学期後半(第5ターム)授業開始
1月下旬	ホーム・ステイ(1泊)
2月中旬	春休み／帰国

秋学期(第4ターム・第5ターム)の授業は10月初めに始まり2月上旬まで続きます。第4タームと第5タームの間には休みがありません。12月下旬から1月はじめにかけて1週間の冬休みがあります。

.....

春学期

第1ターム・第2ターム

4月上旬	オリエンテーション・履修登録
4月	春学期前半(第1ターム)授業開始
6月上旬	春学期後半(第2ターム)授業開始
8月中旬～下旬	帰国

春学期(第1ターム・第2ターム)は4月に始まり、8月初めまで続きます。第1タームと第2タームの間は休みがありません。

J-PAC生は、授業開始前の定められた日に千葉大学の国際交流会館(留学生用の学生寮)に入って下さい。到着後の数日間はオリエンテーションに参加します。

国際交流会館

J-PAC生は、千葉大学国際交流会館のシングル・ルームに住むことができます。この部屋にはベッド、机、ミニ・キッチン、シャワーとトイレがあります。家賃は月19,000円です。さらに、入館の際に15,000円を支払う必要があります。国際交流会館は大学から電車で一駅の稲毛にあります。

※ 金額は変更の可能性があります。

日本での生活費

食費、電気料金、電話代、寮費などの生活費として毎月約7万円が必要です。その他にテキスト代や旅行のためのお金などもかかります。海外から日本の銀行への送金は、来日後半年間はできません。プログラム応募者は、留学期間中の資金計画を立てて申し込むようにしてください。

なお、千葉大学では、原則的に短期留学生の日本でのアルバイトを認めていません。これは、短期留学生のみなさんに勉学に専念していただくためです。やむを得ない事情がある場合に限り、入学後2ターム目からは認めることがあります。

保険

学生は、国民健康保険(毎月1,600円程度)のほかに千葉大学の用意する災害傷害保険(年額1,500円程度)に入らなければなりません。

成績証明書

プログラム終了後、千葉大学で履修した科目の成績証明書を発行し、協定大学宛に送付します。協定大学に届くのは8月までのプログラムに参加した場合は10月中旬、2月までのプログラムに参加した場合は4月中旬になります。帰国後に自分の大学で単位を認めてもらう人は、来日前に担当者によく打ち合わせをしておいてください。

日本文化 体験プログラム

千葉大学では留学生が学内外の人々と交流し、親睦を深める機会として、日帰りで日本人宅を訪問するホームビジット、1泊2日のホームステイ、茶道や書道などの体験プログラムを実施しています。また、千葉県内のバス旅行、国立劇場での歌舞伎鑑賞教室への参加なども予定しています。



千葉大学からの 派遣留学生との交流

千葉大学から協定大学への派遣留学生は年々増えています。J-PAC生は、派遣留学から帰国した千葉大学生や派遣留学の準備をしている千葉大学生と交流し、お互いの経験を共有する機会があります。同じ「留学」という経験をした(する)学生と学び会うことによって、ホスト国としての日本を客観的に見たり、自らの留学の意義を考えたりすることができるようになります。

チューター制度

J-PAC生一人一人に千葉大学の学生をチューターとして紹介します。千葉大学での最初の友人としてつき合い、日常生活や大学生活でわからないことがあったら遠慮なく質問してください。

日本語支援室

留学生が気軽に利用できる日本語支援室があり、日本語の教材やパソコンを自由に使うことができます。この部屋には留学生の日本語の勉強や日常生活をサポートする大学院生のチューターが在室しています。



イングリッシュ・ハウス

キャンパス内にあり、気軽に楽しみながら英語が学べる場所として、国や学部を越えた学生が利用しています。



応募方法

応募方法

応募できるのは、千葉大学と学生交流に関する大学間交流協定を締結している大学に所属する、応募時に2年生以上の学部学生です。学生交流協定により、単位の互換と授業料等の免除が受けられます。交換留学終了後は、帰国しなければなりません。学生の選考は千葉大学の選考委員会が学生の成績、留学目的、所属大学の教員の推薦状をもとに行います。学生は所属大学の留学生課を通して、すべての応募書類を29ページの連絡先に送付してください。

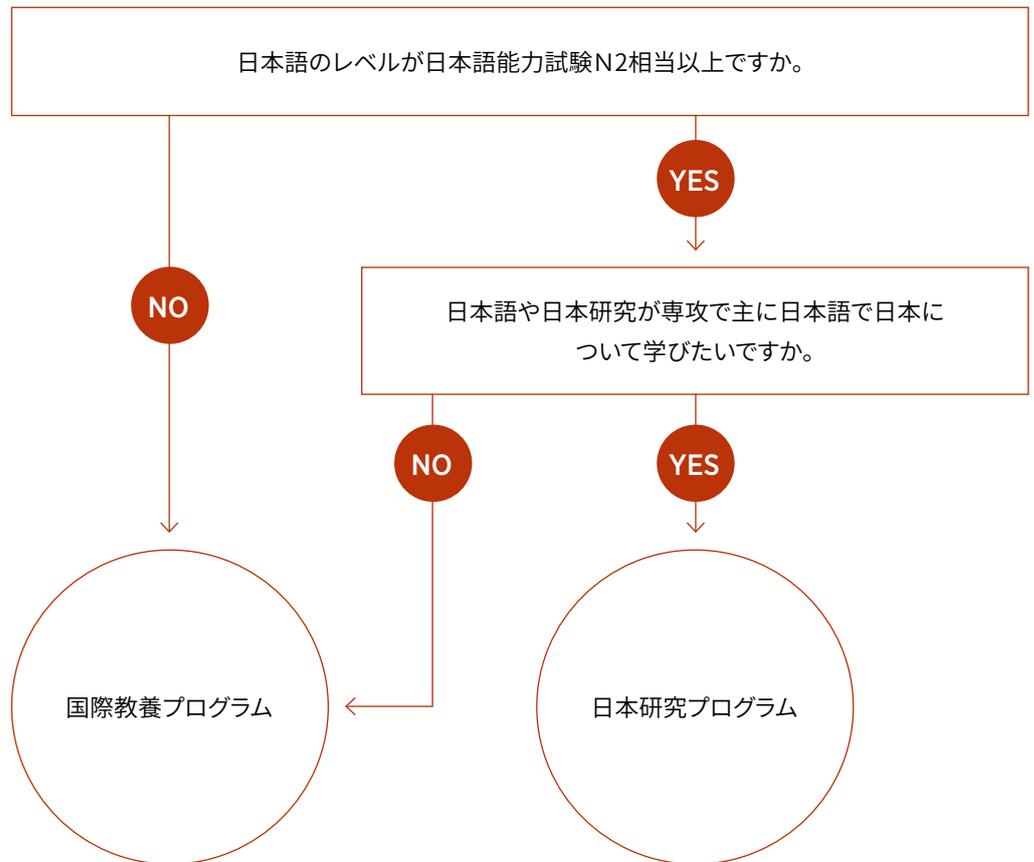
提出書類

- (a) 申請書 (b) 学習計画書 (c) 在籍大学の成績表
 - (d) 応募者を1年以上知っている教員による推薦状 1通
 - (e) 所属大学またはその他日本語を学習した教育機関の日本語教員による日本語能力証明書
(ただし、日本語を独学した場合は不要)
 - (f) 日本語能力がN2レベルに達しておらず、英語運用能力が中級以下の場合はTOEFLまたはIELTSの結果
 - (g) パスポートのコピー 1部
 - (h) 写真: 2枚 (3cm×4cmサイズ)
-

スケジュール

- (1) 2018年10月からのプログラムに参加する場合は、2018年3月10日までに、2019年4月からのプログラムに参加する場合は2018年9月10日までに応募書類を送ってください。
- (2) 千葉大学への応募の結果は5月下旬(4月入学の場合は、11月下旬)までに、あなたの大学の留学生課に通知します。その後、合格者には短期留学生ガイドブックJ-PACを送ります。
- (3) ビザを取るのに必要な在留資格認定証明書(COE)は、8月末(4月入学の場合は2月末)までにあなたの大学の留学生課に送ります。

以下のフローチャートを確認しながら、申込むプログラムを決めてください。



奨学金

J-PACが独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の「海外留学支援制度(協定受入れ)」の支援対象となった場合、千葉大学では数名を月額8万円の奨学金対象者として推薦します(金額は変更の可能性あります)。JASSOの奨学金を受けられるかどうかは、10月受入れの場合は6月30日までに、4月受入れの場合は2月末日までに所属大学の留学生課に通知します。学生から直接の申請はできません。

奨学金を希望しても、JASSOの奨学金が受けられるのは一部の学生に限られます。J-PACがJASSOの支援対象とならない場合もあります。J-PACに受入れられることになっても奨学金が自動的に付与されるわけではないので、注意してください。



連絡先

J-PACに関する問い合わせや連絡は、下記のアドレスをお願い致します。

〒263-8522 日本千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学学務部留学生課

Japan Program at Chiba 担当

Fax : 81-43-290-2198

Email : jpac@office.chiba-u.jp

学生の声

宿瀟丹 千葉大学での留学生生活は私を成長させてくれました。一番達成感を与えてくれたのは特別研究の授業です。特別研究(文系)A・Bの授業の目標は6000字～9000字のレポートを完成することです。最初はどうか心配しましたが、私は日本における「田園回帰」の現象をテーマに選びました。レポートを書くために、実際に現地(千葉県鴨川市)までインタビューをしに行き、いろいろな人に面白い話をたくさん聞かせてもらったのは本当に有意義な経験になりました。先生のご指導やクラスメートと何回も意見交換したことで最後にやっと仕上げられた時の感動は今も覚えています。特別研究(文系)C・Dの授業では、博物館で展示用のワークシートを作るということで、月に一回ぐらい国立歴史民俗博物館に見学に行っていました。この授業のおかげで私は日本の民俗文化への好奇心を満たせただけでなく、自分の紹介した展示物に関する知識も一層詳しくなりました。皆さんもぜひJ-PAC生としての留学生生活を満喫し、千葉大学の留学生向けの授業を積極的に参加してみてください。

オキ・ディタ・アブリヤント 私は日研究生(大使館推薦)として千葉大学で1年間勉強しました。この短い期間で多くのことを勉強し、たくさんの出会いに恵まれました。千葉大学の授業では日本語はもちろん、文化や歴史も勉強できたので、国で勉強できなかったことを学ぶことができました。J-PACを終了して帰国し日本語の教師をやっていた時に、千葉大学で得た経験を生かし、授業を行いました。特に日本の落語についての授業のおかげで日本のお笑いに興味を持ったので、落語や漫才などをインドネシア人日本語学習者に紹介しました。現在日本の大学院に進学し、日本語を研究しているのですが、ここまで至ったのも千葉大学の先生のおかげだと思っています。今行っている研究のヒントだけでなく、研究の仕方、研究への姿勢なども特別研究の授業から学びました。

他の国からの留学生がいても、みんな日本語を積極的に使おうとしているので、毎日日本語を楽しく使えました。放課後にCISG (Chiba University International Students Group) の活動に参加し、日本人の友達も一気に増えました。もちろん、先生方、留学生の友達、日本人の友達とは今でも連絡を取り合っており、千葉大学での1年間は本当に素晴らしい出会いに恵まれたと感じています。

ラッタナブリー・ナンティヤー 千葉大学のJ-PACプログラムに参加できたことにより、まず日本語での日常会話に自信が持てるようになりました。そして、日本文化、日本人の考えを学ぶいい機会となりました。今まで気づけなかった身近なこと、例えば、接客時のおもてなしの心や電車の中でのマナーなど毎日新しい発見ができました。日本を色々な角度から見ることができとても勉強になりました。日本留学は、日本だけではなく、同時にヨーロッパやアジアのことを学べるいい機会にもなりました。一年間の交換留学の期間が終わってしまい、また日本に留学したいという気持ちが強くなっていました。

その後、千葉大学院人文社会科学研究所に入るために日本に戻りました。この時も非常に多くのことを学びました。なかでも深い気づきを得たのは、文化的な背景が異なる相手とのコミュニケーションについてです。様々な事例を研究したことが、大学院進学前の職場で経験した言語面での問題を改めて考え直すきっかけとなりました。専門的なことを学びながら、留学生の後輩たちのチューターの仕事もやらせていただきました。現在タイで日本語教師として働き、日本語・留学に関する相談も受けているので、これらの経験は今の仕事にも役に立っています。千葉大学、千葉大学大学院に留学できた経験は、自分の成長にとってとても重要な経験だったと思っています。

J●PAC

JAPAN PROGRAM at CHIBA

CHIBA UNIVERSITY

千葉大学

〒263-8522 千葉市千葉区稲毛区弥生町1-33

www.chiba-u.ac.jp/e/

Copyright (c) Chiba University. All Rights Reserved.

Book designed by Ikjoon Chang

